
contagious insanity

カツヒロシ!!

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

contagious insanity

【Nコード】

N0822C

【作者名】

カツヒロシ！！

【あらすじ】

狂気とはなにか。それをしりたくて、俺はやつについていったんだ

(前書き)

この作品はフィクションです。感染しませんので穏やかに読んでください。それでは、ドーゾ☆

今から、狂気のはなしをします。

その昔、一人の男がいました。

彼は、内気で、小心者で、怖がりで、臆病者でした。彼はある時、後ろから囁く声を聞きました。

「ここから南に山を二つ越え、東に谷を三つ越えろ。その先に力がある。何者をも覆す力だ。まあ、お前がいららないならいいんだが。」

それから、その声は聞こえなくなりました。

一週間後、彼はとうとう旅に出ました。

南に山を二つ越えるのに、彼は二月かかりました。

その間、何も食わず、飲みませんでした。

さらに東に谷を三つ越えるのに、彼は半年かかりました。

何も食べていなかったで、彼は自分の左手を食べました。そして、その左手からでた血を飲みました。

とうとう、彼は力を手にいれました。

と、いうより、彼は力になりました。

く狂気の始まりく

おしまい。

「それから、狂気はどうなったんですか？」

一人の若い男は読み手の、年老いた男に聞いた。

「それが、まったくわからんのじゃ。そもそも、この話が本当かどうかも怪しいからな。考えてみる、二月も飲まず食わずでいきいていられる人間がいるか？だから、あまり真にうけないことだ。さあ、今日はもうおかえり、ウォン。」

ウォンと呼ばれた若者は、言われるまま、その場を後にした。

辺りはすっかり暗くなつて、今日は月も隠れていて、真っ暗だ。

彼は考えていた。

「そんなものがあるのなら・・・いや、あるのか？気になる！気になる！！」

そんな事を思っていると、後ろから囁く声を聞いた。

「そんなに気になるのか？」

驚いて振り返ると、

そこには左手のない、目には正気はなく、ひよろひよろの、しかしどこか恐ろしい生き物がいた。

「教えてやるよ。狂気はある。」

そいつはそういつて近付いてきた。

「どうして、そう言い切れる。」

俺は冷静になって、いや、冷静を装って聞いた。
すると、そいつは笑って、

「俺は狂気に一番近いからだ。」

といった。

「証拠はあるのか。」

「あるさ。」

「教えてくれ！狂気とはなんだ！！」

しりたがりで有名な俺が、こんなところでひくわけにはいかない。

「知りたいか？ならばついてこい。狂気を見せてやる。」

俺はやつのいうとおりついていった。

しばらく進むと、もう辺りは暗闇で、あいつと自分自身しかみえなかった。

「狂気について、まずは話してやる」
そしてやつは静かに物語る。

昔、遠い昔、一人の男がいました。

そいつは自分の事が好きでした。ただ、そいつはまわりの人間に、さげすまれ、うとまれ、あざけられました。

そいつは内気で、何もいうことができませんでした。そして、そいつの中で、ひとつの黒い感情が目覚めてきたのです。

その感情を溜め込んで、溜め込んで、彼はとうとう頭がおかしくなりました。

その時にこんな声を聞いたのです。

「お前は狂気に感染した。いま、お前は無敵だ。今まで溜め込んでいたものをはきだせ。」

「それで？」

「それからそいつは自分の家族、友人、街ひとつにいた人間全てだ。全てぐちゃぐちゃにして殺した。気持ちよかったぜい、あの時の、やつらの表情、悲鳴。絶叫。」

そいつは腹を抱えて笑いだした。

「お前が、狂気なのか？」そして、その質問にやつは即答だった。

「いや、違うね、俺は感染しただけだ。」

「・・・どういう？」

「狂気は人にうつるのさ。伝染病のように、ウィルスのように。」

「そうなのか・・・。じゃあ、俺はかえるよ。ありがとう。」

ここにいてはいけない気がした。

一刻も早くこの場をさらなければいけない気がした。

「さてよ！まだおわってないぜえ・・・」

体が動かなくなった。やつは近付いてきた。

「狂気に感染して、人間を殺したまではないが、その後が問題でよお・・・殺したりねえんだ！虚無間を埋めたくて、人を殺したくて仕方ないんだ！！苦しいんだよ・・・！」

そして倒れこんだ俺に顔を近付けて、やつはいった。

「狂気は感染するんだ。例外はない。そう、お前にもだ。」

夜の静かな闇に、不気味な笑い声が響いた。

「おい、狂気について知りたいか？」
まだ若い男、だがひよろひよろで、どこか恐ろしい、まがまがしいものを纏っていた。

「うん。知りたい。教えて。力が欲しいの。」
若い女はそういった。

「いいぜ、教えてやるよ。ついてこい。」
そして不気味に笑いながら、俺はそいつを連れていく。

狂気の世界へ。

教えてやるよ、

狂気は感染するんだ。

（後書き）

いかがでしたか？今回は狂気という感情をおもしろおかしく？書いてみました。ワールドシリーズとは少しはなれましたが、まだまだいきます。それではまた、のちほど。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0822c/>

contagious insanity

2011年1月4日04時04分発行